

今後、当院で参考にしていきたいと考える事項

- | |
|--|
| 1)教育体制
2)造血幹細胞移植看護の教育（導入と習得状況の確認）
3)長期フォローアップ外来の充実 |
|--|

1)教育体制について

国立がん研究センター中央病院	国立成育医療研究センター
①先輩看護師と後輩看護師がペアとなり業務していることで、経験の少ない看護師にとっては、未経験の看護技術やアセスメント等を先輩看護師に相談でき、安心して業務を遂行することが可能となる。 ②先輩看護師の患者への関わりを間近に見ることで自身のスキルアップにもつながると考える。	①日勤のリーダー看護師が、病棟全体の状況を見ながら経験年数の少ない看護師のフォローをしているが、人員の不足もあるため、リーダーも多忙であり、先輩看護師の技術を見る機会が少ない。 ②体調不良で機嫌の悪い患者に関わる際にどのように接したらよいか、必要なケアを実施できないこともあり、経験の少ない看護師では実施できず、ベテラン看護師の支援が必要である。また、保護者を不安にってしまうとともに職員自身もジレンマをかかえることになる。 人員の問題で先輩と後輩がペアになることは困難であるが、指導の方法としては有効であると考ええる。

2)造血幹細胞移植看護の教育（導入と習得状況の確認）

国立がん研究センター	国立成育医療研究センター
造血幹細胞移植に関わる看護師全員が自己評価をし、習得状況を可視化している。病棟全体の造血幹細胞移植看護の習得状況が明らかになり、課題を見つけやすい。	1年目・2年目看護師に対して、項目を挙げ、学習し、習得状況をチェックしてから造血幹細胞移植看護の業務をすることができる。しかし、3年目以降では、自己研鑽となり、習得状況が可視化されていないのが、課題である。

3)長期フォローアップ外来の充実

国立がん研究センター	国立成育医療研究センター
移植後の患者さんに特化した外来であり、1日に5名の受診が可能である。 事前に問診票に記載し、共通した指標で評価しているため、評価に漏れがない。患者も医師への伝達事項等を問診票に記載している。	小児がん治療を経験した患者さんを対象としており、1日に2名の受診が可能である。 看護師が問診し、医師に報告している。 問診方法や連携方法の検討が必要である。